

『ゴルフとは、自らを自らで励ますこと。』



バリューゴルフ  
**VALUE GOLF**  
www.valuegolf.co.jp

## 杉浦悠太の優勝

11月に開催されたダンロップフェニックストーナメントがまたもや大きなドラマを作った。宮崎県の太平洋の風が強い海沿いのコースで開かれるこのトーナメントは、いつもたくさんの話題を提供し、タイガー・ウッズの優勝をはじめ、華々しく活躍してきた選手がトロフィーを手にしてきた。

今回は二つの注目していることがあった。初日になんとアマチュアの杉浦悠太（22・日大4年）がいきなりトップで飛び出した。松山はもちろんのこと、メジャーチャンピオンのケブカ、今年の優勝賞金を争う中島、その他並み居るトッププロたちを差し置いて、果たして、彼が4日間トップを維持することができるのか。もう一つの注目したポイントは、最終日にまだ学生アマの彼がこのトーナメントで勝利することのプレッシャーに耐えられるかどうか。海沿いのコースだけに時には計算できないほどの突風に悩まされ、またグリーン上は1mほどのショートパットも油断できないほどの難コースである。しかし彼のプレーは私の想像を超えて堂々としたものだった。

最終日、同組の賞金王候補の中島が、「彼ほどテンポよく、淡々とプレーする選手はいない」と、コメントしているように、表には動揺を見せない強い心が、他の追い上げを全く許さなかった。アマチュアの優勝は、ツアー7人目。ナショナルチームの先輩でもある金谷や、蟬川らに肩を並べた。しかも、先にも述べたが、セベ・バレストロス、タイガー・ウッズやトム・ワトソンそして、松山英樹など、ビッグネームが優勝している大会50年の歴史の中での新たな1

ページだ。

18番グリーンでの優勝スピーチ。晴れやかな表情で、そして高らかに杉浦は決意表明をした。「プロ宣言することになりました」。優勝後、即プロ転向の宣言にギャラリーから大きな拍手が起こった。

「メジャーに勝った選手がいる中で、本当に嬉しいです。4打差に感じませんでした」。60台を3日間続けたラウンドから、最終日は71と苦しみを味わった。しかし、そんな弱気の虫を振り払ったのは、なんと言っても勝ちたいという強い気持ちだった。ここ一番では絶対曲がらないという彼のドライバーは、高校時代からの武器である。

表彰式を終えた18番グリーンで、杉浦は真っ先に父・博倫さんと喜びを抱きしめあった。「お父さん、プロ宣言したよ。優勝副賞の大きな宮崎牛が届くみたいだよ」と感謝の報告をした。

父が作った鳥かご打撃場で、4歳でクラブを握った少年は、今、プロとして大きな一歩を踏み出した。



戸張 捷 Sho Tobaru

1945年、東京生まれ。高校からゴルフを始め、3年で全日本ジュニア3位、大学4年で日本アマ9位。住友ゴム工業（現SRIスポーツ）に入社後、株式会社ダンロップスポーツエンタープライズへ出向。トーナメントディレクター、プロデューサーとして日本ゴルフ界に貢献した。現在は、ゴルフキャスターとして活躍するほか、ゴルフトーナメントやイベントのプロデューサー、コンサルティングなども手掛けている。